

事例研究会 1 考察

事例研究会後の振り返りで、参加教師の感想を聞き考察を行った。

資料から多面的な理解を進めることができた。また、資料と黒板図との関連が図られ、生徒の状況を無理なく確認できた。



情報提供の機会を設けたことで、事例提供者の視点だけでなく学年教師の視点も取り込み、情報を共有して対応策を考えることができた。また、これまで発言のなかった教師が、情報提供から積極的に話し合いに参加していた。

問題を黒板に図示することで、教師が生徒の全体状況を客観的に見つめることができた。その際、心理的な状況を考えたことが、共感的理解を深めながら対応策を考えることにつながった。

記録用紙を使用したことが板書事項を写す行動につながり、対応策を考える際の助けになった。

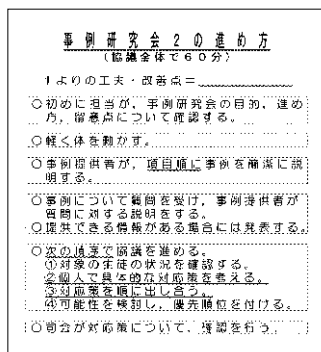
自由に話し合っただけで対応策を考えられたものの、話題が拡散して予定時間をオーバーした。

事例研究会 2 実践内容

このような結果を受け、話題の拡散を防ぎ時間短縮を図るため、個人で具体的な対応策を考えるなど変更を行い、第2回的事例研究会を実施した。

事例研究会 2 考察

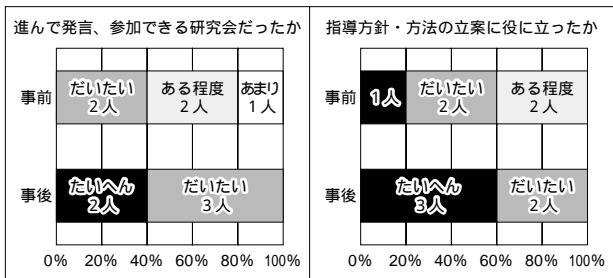
対応策を個人で考えてから話し合いをしたことで、予定した時間内に終了し、参加者全員が意見を



出し合って活発な話し合いとなった。

図を用いての状況の確認や心理面の考察が不十分であったため、対応策を考えにくかった。状況の確認 対応策の段階を踏む重要性を再確認した。最後に、事例研究会参加教師にまとめの意識調査を行った結果、以下のような感想・評価が得られた。

事例研究会を振り返って(教師感想)
 実際の場面で対応に生かすことができた。事例研究会で共通理解を図る中で連携が深まってきたように思う。他の考え方や受け止め方が分かり、自分の考え方に気付いて、考えに幅が出てきた。対応に広がりが出てきた。



研究のまとめ

事例研究会の進め方に工夫・改善を行い、比較的短時間の中で具体的な対応策を考えることができた。以下に、学校における実効性のある事例研究会のポイントをまとめてみた。

学年を基本とした集団で実施する。

資料に小項目を設定し、事実のみを偏りなく記入する。

参加者相互の情報提供を大切にし、問題を考える際の視点を共有していく。

黒板を使用し、図を用いて生徒の状況を確実に整理する。その際、児童生徒の心理面の考察を大切ににする。

具体的な対応策を、個人で考え、それをもとに話し合いを進める。

今後、学校全体との連携の方法、養護教諭を含めた取り組み、問題の客観化の形式、継続事例の進め方などについて、更に研究を深めたい。

参考・引用文献

- 1) 埼玉県立南教育センター研究報告書238号
- 2) 秋田県総合教育センター研究紀要第32集
- 3) SSTと心理教育 伊藤順一郎著(中央法規)